

RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2010-2011 年度 No.9

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 FAX 0763-53-1334、(レイ・クリンギンスマス会長)

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2010-2011 年度 会長 山本武夫 、幹事 助田幸雄

~~~~~

2010-2011 年度 RI テーマ



「地球を育み、  
大陸をつなぐ」

## 例 会 記 錄

### 第 1 5 3 9 回 例 会

平成 22 年 9 月 8 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング 四つのテスト

3. 会長の時間：昨日までの猛暑も、強い雨が降りいつぱんに涼しくなりました。台風の影響というものはこんなにもあるものかと、天候の変化には驚かされます。今度は、田んぼがあまり被害がないことを祈っております。

さて、昨日、砺波 RC の創立 55 周年記念例会・感謝の集いに、助田幹事といってまいりました。懇親会で祝辞をと言われましたが、前に述べられた南砺 RC の東副会長の祝辞があまりにも、面白可笑しく上手だったので、そのあとが大変でした。その前に記念講演があり、チューリップテレビ制作部の柴田恭子さんが、元 R 財団国際親善奨学生として、イギリス留学した経験とその後の職場での仕事について話されました。次々と当クラブの推薦した楠本さんが訪問され、スピーチをお願いしていますが、彼女にもそういう意味で今後の活躍を期待したいものです。

また、木村先生には先日お母様が亡くなられ、おさみしいことでした。心よりお悔やみ申し上げます。

最後に、健康について、酷暑ということで、暑さ対策を十分にということが言われてきましたが、時間がたてば、「のど元過ぎれば・・・」で人間はすぐ忘れます。今年度のテーマは、健康ですが、またいろいろ

健康には繰り返し提言をしなければ効果はありません。また、機会あるごとに取り上げていきたいです。

4. 幹事報告：本日の例会後、臨時理事会を開催します。

5. ご挨拶(木村英典会員)：先日の母のお通夜・葬儀には、会長はじめ多数の会員の皆様にお参りして頂き、有難うございました。さぞ、母も喜んでいると思います。大正 2 年 10 月 7 日生まれでしたから、もうすぐ満 97 歳でした。これまで元気でこのまま 100 歳を迎えるのではと思っていたくらいでしたが、今年になって急に体調を崩し、1 カ月ほど前から食事もあまり進まなくなりました。亡くなつて悲しいことは悲しいのですが、それでも、大きな病気を患うことなく、天寿を全うしたと家族一同、めでたいことだと受け止めております。普段から笑顔を絶やさず、「有難う」「ごめんね」が口癖で、感謝の日暮しをしておりました。このたびは、本当に有難うございました。

6. ニコニコ BOX(本日 5 名 6000 円 + 木村会員より返礼 50000 円)

木村英典会員：ご会葬お礼。

斎藤会員：早退お詫び。台風被害心配です。

上田会員：入会して 19 年。初めて例会場の設営を頭から手伝いました。弁当が美味しいです。

岩崎会員：台風が進路を変え、ほっとしています。

山本会長：昨日、砺波 RC 創立 55 周年記念例会・感謝の集いに行ってきました。

荒木会員：秋の実りを迎え、台風が何事もなく通過

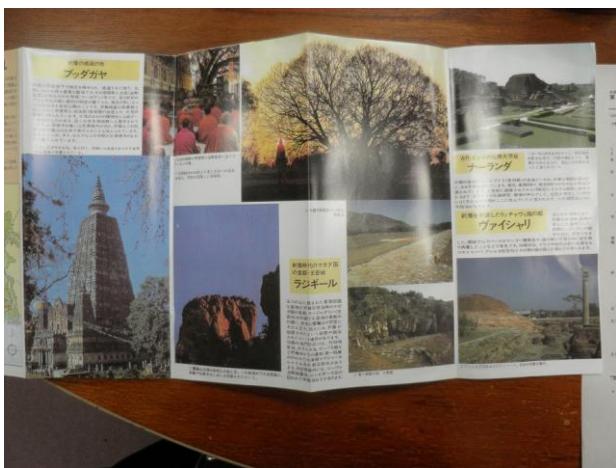
を！

7. 委員会報告①出席委員会：20名中13名出席（調整後68.42%）



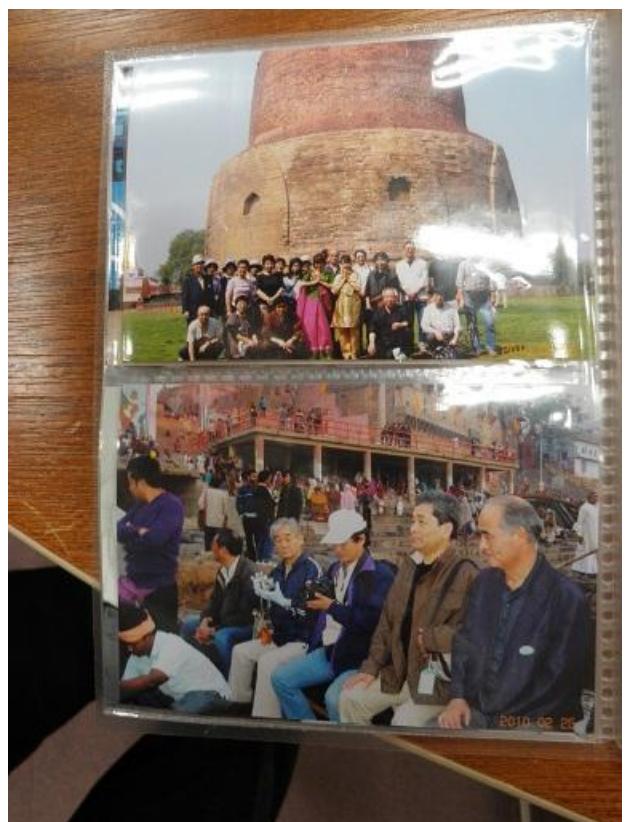
## 卓話「インド旅行記」三角信行会員

**三角会員**：昨年の12月企画のインドの正味5日間の旅に誘われて、躊躇していましたが、今年の2月22-26日に新湊の覚円寺さんのお世話で、思い切ってインドに行ってきました。高瀬先生も、前にインドに行ってこられてお話をされました。私もスライドなどは苦手なので、一部資料とともにお話をさせていただきます。



お釈迦様の修行の地めぐり、というツアーで、バナレス、ラジギール、ガヤ、ブダガヤという聖地を回ってきました。2月22日に、中部空港を出発、バンコク経由で、インド中北部のバナレス(ワーラーナシー：山本注・Googleより)に着きました。そこから、お釈迦様の2大聖地、ガヤにバスで移動しました。その大聖堂には、靴を脱ぎ、裸

足でお参りしました。聖堂のあるブダガヤは、貧困の地でバスが通る道にもごみが散乱していて、生活している人々の姿は、大変悲惨な様子でした。インド人のガイドさんによると、これで人々は満足しているということでした。日本風ホテル「法華クラブ」に泊まり、せっかく来たのだからとインド料理を頂きました。日本のようなカレーライスみたいなものはなく、野菜や鶏肉料理がカレー味になっていました。日本料理も食べてみましたが、食材は現地のもののようにでしたが、味は薄く全然違っていました。



インドは、人口が10億人といわれて、都市部での最近の近代的発展はめまぐるしいものがありますが、田舎は、井波の50年前の姿のようで、牛が貴重で神様みたいな扱いを受け、道を堂々と通り、糞だらけで、バスはバックミラーなしで前進のみでした。ガヤからバナレスまで、2段の寝台車の急行列車で4時間乗りました。それが、出発時に、定刻通りに来ることはなく、途中駅でもない所に停車するなど、日本では考えられない運行状態でした。

バナレスは、大きな都市で、空港での手荷物検査も厳格で、私が現地で買ったお土産(金属に薄い七宝が施されたもの)が、金属探知器にチェックされ、荷物をすべて開けさせられました。同行者には、大変迷惑をかけてしまいま

した。こうして、帰りはバンコク経由で中部空港に無事戻ってきました。



後日談として、2月の旅行でしたので、インドは気温が25-30°Cで、日本に帰ると高速のひるがの高原では、雪の降っている状態で、ずいぶん変化がありました。そういうわけで帰国後、体調を崩し、発熱し砺波総合病院で検査を受けました。投薬してもらい、1週間ほどで治りましたが、ツアーの反省会で、聞いたところによると半数が同じ症状を訴えたということでした。原因は、注意していた水でなく、生野菜のようです。

海外には、中国やオーストラリアにも行きましたが、インドがやはり貧しく、ガンジス川は聖なる川とされていますが、どろどろの濁った状態でした。それでも人々は沐浴をしていました。人が亡くなると、川べりで火葬し、灰をガンジス川に撒くという儀式も見てきました。改めてまた行きたいかと問われると、遠慮したいのが本音です。

帰国後、あるTV番組で、「心の貧しさ」ということが話題になっていましたが、インドの人々は、生活は貧しいのですが、それぞれ満足しているという点では、心の貧し

さというものがないのでは…。現代社会の日本は、昔のように一家で茶の間で1台のTVを見ながら、ワイワイすることもなく、各部屋に1台のTVを持ち、食事の時も携帯電話を持ちながら、話もしないでいるというのが見られます。考えさせられます。（資料・スライド・卓話を抜粋：山本）

